

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市通町児童館		
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘		
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 24,057人(前年度比 123.5%) 令和4年度 19,483人 令和3年度 16,301人		
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 39,724千円 (34,069千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 なお、児童館管理業務仕様書において月に1回以上実施しなければならないと定めている避難訓練等を実施していない月があった。	29/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>コロナを経て、事業再開や行事のあり方を丁寧に検討しながら運営した。</p> <p>◆児童健全育成事業 梅ジュース、かき氷、スイカ割り、七夕、干し柿作り、餅ふるまい、七草、節分と食育や季節の行事を通して、交流し楽しんだ。小学生の自由来館が昨年の6倍に増加し、小学生対象の「わくわくタイム」は人気が高かった。自由遊びのミニショップは58店舗・延べ571名が自主参加し盛り上がった。</p> <p>◆子育て家庭支援事業 登録制幼児クラブや年間144日実施の地域子育て支援拠点事業、おはなし会、1DAYサロン、びよびよ広場などの定例行事に、多くの乳幼児親子が集まった。地域の小規模保育園や母子保護施設と相談し、施設利用や地域の親子の情報共有を進めた。また、自由来館の保護者からの相談など、必要と思われる親子への支援として各施設との細かな連携を進めた。</p> <p>◆地域交流推進事業 じどうかんまつりでは、子どもたちが栽培した枝豆を保護者の皆さんに調理いただき、子ども手作り梅ジュースとともに提供した。地域から寄せられた本や衣類、おもちゃの「おさがり市コーナー」や社会福祉協議会協力の「手作りおもちゃ・くるくるメリー」も賑わい、子どもや保護者、乳幼児親子など楽しい世代間交流となった。また、通町・柏木ご近所会議から生まれた「遊びでつながるまち作り・てらまちフェスタ」は、23団体が集い、幼児から小中学生、保護者も加わり、延べ1,400名が参加し、大きな地域交流の一日となった。</p> <p>◆放課後児童健全育成事業 サテライトが開設され、小学校との連携のもと、防犯や学校行事とサテライト室使用の調整をしながら、2か所で児童クラブを運営した。学年の交流の仕方や保護者様の相談、人数増の中での事故・ケガの防止など多くの課題に向き合った一年である。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、「わくわくタイム」で制作や運動遊びなど豊富な体験プログラムを提供したり、日頃楽しんで遊べる「ミニショップ」の活動として継続的に遊べる環境を作るなど、子どもの自主性や興味関心を広げる遊びを提供している。自由来館の小学生の増加につながり、異年齢の子ども達が日常的に交流することで社会性や主体性を育んだり、地域における子ども達の居場所になっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の幼児クラブに加えて対象年齢をなくした「びよびよ広場」を開催した。乳幼児親子の視点で利用しやすい環境作りを努め、多彩なプログラムを提供したことにより利用者が増加している。また、区の保健師による感染症講座や、保育園等の協力で「食育・おやつ＝幼児期に食べさせたい食事」のレシピを作成して館便りに掲載するなど、地域の関係機関と積極的に連携しながら子どもと子育て家庭を支援する環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>地域交流推進事業においては、市民センター等の協力で「柿もぎ」を行って地域の保育園や来館者に配布したり、地域住民と一緒に「干し柿作り」を行うなど、地域と連携した協力体制のもとに充実した事業を展開している。また、市民センターまつりや23団体が集う「てらまちフェスタ」に児童館として参加するなど、地域に根付いた活動を積極的に行っている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、子どもの様子や興味関心に合わせて子どもと一緒に生活や遊びを組み立て、安心して過ごしたり主体的に活動できるような環境を整えている。豊富な材料を使った造形遊びを通して豊かな感性を育んだり、市民センターまつりや児童館フェンスに子どもの作品を展示し、子ども達の達成感や自己肯定感を得る機会につなげている。</p>	A

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課